

教職課程センターだより 第23号

発行日 2020年3月27日

巻頭言 日本の教育は子どもたちを権限と責任のある市民を育てているか

教職課程センター副センター長 藤井啓之

昨年11月、日本財団は「18歳意識調査『第20回 社会や国に対する意識調査』」の結果を公表した。先進国や発展途上国など9カ国の国際比較調査だ。調査結果には、日本の若者の特異性が顕著にあらわれた。というのも、①「自分を大人だと思う」(29.1% 49.1% 前者が日本、後者が日本に次いで少ない国) ②「自分は責任がある社会の一員だと思う」(44.8% 74.6%) ③「将来の夢を持っている」(60.1% 82.2%) ④「自分で国や社会を変えられると思う」(18.3% 39.5%) ⑤「自分の国に解決したい社会問題がある」(46.4% 66.2%) ⑥「社会問題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している」(27.2% 55.0%)の全項目で、日本は他国と比較して圧倒的に低い数値が出ているからである。(日本に次いで少ないのは⑤のドイツを除いてすべて韓国である。)

18歳という年齢は、高校進学率97%を超え、高校卒業率も88%となっている現代日本で考えれば、それまでの学校教育の「成果」が現れる年齢である。日本の学校教育は、子どもたちの意見表明を促したり、社会問題に目を向けさせたりすることがほとんどない。子どもたちが要求を実現したり、社会問題を自ら解決したりする力を育てるという視点にいたっては壊滅的である。地球温暖化問題では、このままいけば、早ければ2030年にも産業革命前と比べて1.5℃の気温上昇に達すると見られている。1.5℃を超えると連鎖的に地球温暖化が進み、後戻りできなくなると言われており、そうなると今世紀末には4.0℃の上昇となることが予測されている。異常気象や食料不足など、人類だけでなく全生物の死活問題が次々と起こってくる。だから、世界の主要都市では生徒会などが主導して、若者が繰り返し「万」単位でのデモを行っている。ところが日本では参加者は100名前後で、その半数はインターナショナルスクールの生徒だったりする。温暖化の原因となるプラスチックカップやストローを使ったタピオカドリンク店の前には「幸福そうに」行列をつくっている。

このような状況を変えるには、まず、教師が社会問題に関心を持つことが大切なのではないか。日本の若者は、⑥に肯定的に回答した者がわずか27.2%しかないのだが、教師が社会問題について語れば、状況はかなり改善されるのではないか。そのためには、「政治的中立性」の名のもとに、教員の自由な意見表明を困難にしている現在の日本の教育行政を変えなければならないが、大学の教員も、教員養成課程や教職課程の授業や授業外で積極的に社会問題について語り、若者が社会問題を知り、社会問題に目が向くようにすべきではないか。それとともに、児童・生徒・学生が自らの要求を持ち、それを実現するための「自治能力」を育てることも喫緊の課題である。自ら要求実現や社会問題の解決に取り組んだ経験のない者は、教員になってもそれを子どもたちに教えるのは困難だ。教員志望の学生さんには、いまのうちにさまざまな要求実現活動等を行ってみることをお勧めしたい。



3年生スタートアップ講座に参加して

子ども発達学部 心理臨床学科 障害児心理専修3年 本多 秀行

私がこのステップアップ講座に参加した理由は、「現役で教員採用試験に合格したい」という思いが強かったからです。また、3年後期になり、教員採用試験に対して本格的に取り組まなければならない時期になったため、自分が志望する都道府県の出題傾向や倍率など、具体的な情報を得るために参加しました。

講座では、各都道府県の出題傾向や倍率など、分かりやすくまとめられた資料を基に説明してくださったため、自分の志望する自治体だけでなく、たくさんの自治体の情報を得ることができました。また、お話を聞くなかで自分に合った勉強方法を見つけ、これから教員採用試験までの勉強の進め方についての理解を深めることもできました。

ステップアップ講座に参加して、プラスになることが多くありましたが、私はそのなかでも、「このままではいけない」という焦りを感じたことが自分にとって一番大きな収穫だと感じています。ステップアップ講座を受ける前の私は、小学校教育実習から帰ってきたばかりで、その達成感からか、教員採用試験に対する考えが甘く、危機感のない状態でした。そのようななかで講座を受けたことで、自分の気持ちが引き締まり、勉強に対するモチベーションも上がりました。

もしもステップアップ講座に参加していなかったら、自分の認識の甘さに気づかないまま、教員採用試験に対するモチベーションも上がらなかったと思います。ステップアップ講座で得たことを糧にしてこれからも教員採用試験に向けて勉強に励みたいと思います。



教員採用試験合格体験発表会に参加して

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 地代 ひかる



私が教員採用試験の合格者体験発表会に参加した理由は、2つある。1つ目は、どのように対策を行ったかを知るためだ。教員採用試験について右も左もわからない状態だったため、まず合格者の先輩方がどのように対策を講じていたのかを知るために参加してみようと考えた。2つ目は、私が教員採用試験を受ける県にどのような試験や面接の傾向があるのか、その特徴を少しでも知ることができたらと考えたからだ。愛知県や名古屋市の採用試験を受けたという方が多いのではないかと考えたが、それでも何か役に立つものが得られるのではないかと考えた。

発表会では、「勉強はあまり得意ではない」と述べた方が多かったことがまず印象に残った。こういった試験は、勉強が得意な人が合格者の大半を占めると考えていたからだ。また、「気持ちが折れそうになった」・「モチベーションを維持することが大変だった」と述べた方も多く、自分にはたして乗り越えられるのかという不安がよぎった。

この合格者体験発表会に参加して、不安が大きく膨らんだのは事実だ。なぜなら私は、勉強が得意ではないうえ、自信があるとは言い難いからだ。しかし、今まで学んだことを活かしたい、教職に就きたいという気持ちがある。今後、努力することで勉強が不得手、自信がないことを乗り越えたいと思った。そのためにはまず、自分の苦手な試験科目や面接方法から改善していこうと考えた。1年後、後悔のないようにすることが今の目標だ。目標を目標で終わらせないように行動することが、今、自分に求められていると改めて感じた。



教員採用試験合格体験発表会に参加して

スポーツ科学部 スポーツ科学科3年 塚原 涼太

先日開催された教員採用試験合格体験報告会に参加させていただきました。私はスポーツ科学部1期生なので同じ学部の「先輩」がいないため今後どのように試験に向けた準備をしたら良いのか、なにを始めるべきなのか分からないこともあり、この報告会に参加しました。

先輩方は、それぞれ自治体の異なるところで試験を受け合格されていたが、お話の中で共通していることは、自分の受ける自治体の情報を集めることから始めるということでした。自治体によって試験内容や形式、日程が異なるため情報収集をしてからその自治体ごとに対策をして勉強に取り掛かることが必要であることを知り、試験対策のスタートの仕方が分かりました。

また印象的だったのは、自主ゼミを作って自分たちで集まって勉強や面接の練習をしているということです。同じ目標に向けて頑張る仲間を作ること自分のモチベーションにつながり、面接練習においては話し方や言葉の使い方などたくさんヒントを貰える場であるため自主ゼミの存在はとても大きいものであると知りました。試験対策は一人ではなかなか進められなくなる時期が来るというお話も聞きました。一緒に頑張る仲間の存在がそのような時期は特に必要になるのだらうと感じました。

この報告会に参加するまで、なかなか手付かずだった試験対策も先輩方のお話を聞いて自分のやらなければいけないことが明確になったのでひとつずつ進めて行きたいと思います。そして、来年度特にスポーツ科学部の後輩にアドバイスができるよう、同じ目標に向けて頑張っている仲間と共に教員採用試験に向けて努力したいと思っています。

合格体験記 石川県(小学校・特別支援学校)

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 三義 恵美

<受けた試験>

- ・石川県の教員採用試験（小学校教諭と特別支援学校教諭の併願）
- ・国家公務員試験（法務省専門職員（人間科学）採用試験）

<試験までの流れ>

時期	教員採用試験対策	国家公務員試験対策
3年10月	他県の過去問を解き始める	
12月	（過去問、一旦中止） CDP講座開始（各教科の問題を解いたり、解説を聞く）	数的推理・判断推理の勉強開始
3月	石川県での教員試験対策講座 CDP講座 宮園さん特別講座	数的推理・判断推理の勉強
4年 4月	CDP模試 教採実践講座（宮園さん） （論作文、教職教養、面接対策）	公務員試験直前試験対策講座開始 CDP講座開始（模試を受けて、解説を聞く） 10日、試験申し込み〆切
5月	教採実践講座 自主ゼミ始動（模擬授業） 願書を書き始める 31日、教採申し込み〆切	公務員試験直前試験対策講座 CDP講座
6月	自主ゼミ 教採直前対策講座 実技練習（理科）	公務員試験直前試験対策講座 CDP講座 （1次試験が終わるまで） 面接練習開始 （1次試験が終わった後） 9日、1次試験（筆記）
7月	自主ゼミ 実技練習（水泳） 20日、筆記試験 21日、実技試験	2日、1次試験合格発表 11日、2次試験（身体検査、面接）
8月	4日、模擬授業・面接	20日、2次試験合格発表
9月		少年院の施設見学
10月	11日、合格発表	4日、採用面接 17日、内定通知

※教員採用試験と公務員試験を併願したということを頭において読んでください！



①受験対策・勉強法について

- ・教採と公務員試験で重なる問題に重点を置きました（数的推理・判断推理）。
→それぞれの問題の出題傾向を調べるのが大切です。
- ・教採の対策はCDP講座、宮園さんの対策講座、自主ゼミに出席するだけで、筆記の勉強はほぼしていません（公務員の試験が終わるまで）。
→まずは、公務員試験に集中しました。
- ・CDP講座や対策講座は、復習しようと思ってもやる気が起きず、できませんでした。
→勉強は大学でやって、家では一切勉強しませんでした（メリハリ）。
- ・自主ゼミは、齋藤先生と板垣先生に週に1回ずつ（週2）を繰り返し、模擬授業の練習をしました。
→友達が自主ゼミを立ち上げてくれ、そこに乗っかりました。試験のときと同じ時間配分で実施し、他の友達に、自分の授業を見てもらう形です。
- ・苦手な暗記科目は、記憶ノート（自作です。覚えたいことをまとめたノートです。）にまとめ、それを覚えようとはせずに毎日パラパラと眺めるだけにしました。
→5月から始め、できるだけ空き時間に眺めるようにしました。寝る前は必ず見るようにしました。
- ・勉強する範囲が広いので、「勉強しない範囲」を作り、割り切った部分があります。
→勉強していない範囲が試験で出ても仕方ないことにし、勉強した範囲だけは必ず解けるようにと割り切っていました。

②実際に受験してみても

- ・試験が近づいてくると焦ってきます。
→私は、焦ってもどうしようもないので、リフレッシュの時間を増やしました。サークルの時間を息抜きにしたり、好きなアイスクリームを友達と食べたりしていました。
- ・試験前日は、試験会場までの道順を確認し、あとはゆっくり過ごした方がいいです。そして、早く寝ましょう。
→緊張して勉強にも手がつかなくなると思います。私はあまり緊張しませんでした。もう勉強はしなかったのでも、理科の実技の手順を確認して、記憶ノートを眺めるだけにしました。友達と焼肉に行き、試験会場の近くのホテルに泊まりました。
- ・試験当日は、少し早めに起きて、ゆっくり準備しましょう。
→気持ちを落ち着かせるためです。
- ・当日は受験者みんな、頭がよく見えます。
→なぜかこの日だけ、周りの人がすごく頭がよく見えます。自分は自分と思ってください。なんとかなります。

③後輩へのメッセージ

私は、公務員試験も同時に受験したので、教採に割く時間が極端に少ないです。家では勉強しなかったり、勉強しない範囲をあえて作ったり、一か八かの賭けに出ているところがあります。でも、それが勉強のメリハリ・集中力に繋がったのかなと思います。

勉強内容・方法はアドバイスすることもできず、本当に参考になるようなところがないと思います。しかし、伝えたいことが1つあります。それは「自分に甘く」なってください。やる気が出ない自分を責めなくて、いたわってあげてください。周りの人が勉強していると焦ると思いますが、いかに自分のペースでやっていけるかが大切だと感じました。勉強に手がつかない日は、どうしようも焦るよりは思い切って遊んで、楽しんだ方が何倍も意味のある日になると思います。もう一度言います。自分に甘くなってください。応援しています。





合格体験記 長野県(特別支援学校)

子ども発達学部 心理臨床学科 障害児心理専修 2018年度卒業 竹内 恵

今回、合格体験記を書く前に、今の生活について書きたいと思います。

私は今、常勤講師として特別支援学校の高等部に勤めています。分教室という形の学校で、開校して4年目の新しい学校です。一学年11～12人の、全校で34人という小さな学校で、各学年一クラスです。私は、1年生の11人学級で担任をしています。各クラスに担任が4人おり、教務主任と養護教諭、支援員の方を合わせても全体で15人と職員も少ない学校です。分教室という名前ではありますが、通常の学校のように校務分掌などの仕事も当然あり、それを14人で分担します。一人当たりの配分は多くなり、私も5つほど担当しています。それ以外にも、授業準備や作業学習準備、生徒指導や保護者対応、学級会計など、想像以上の仕事量に1学期の頃は戸惑っていました。生徒が下校する時間は15時ですが、その後19時、20時までパソコンと向き合っています。

なぜ、最初に今の生活について書いたのかと言いますと、読んでいただいたら分かるかと思いますが、毎日非常に忙しい生活を送っています。勤める学校にもよるかと思いますが、なかなか試験対策の時間を取ることが難しいということが伝わればなと思います。それを踏まえて、本題に入っていきたいと思います。

1 4年生の教採で見た課題を、講師生活をしながらどう乗り越えたか

大学4年生の教員採用試験の中で、私に残った課題は「自信」だと感じました。私は、人前で話すということが非常に苦手で、普段はよくしゃべるのですが、いざ人前に立って話すとなると緊張して頭が真っ白になり、話し始めたとしても早口になってしまうという課題がありました。大学2年生の頃からサークルや授業を通して、できるだけ人前に出て話すことを意識してきましたが、すぐに克服することはできず、採用試験の面接練習でも「早口になっている、笑顔が少ない」と様々な先生に指摘されました。長野県の一次試験は、筆記試験と小論文、集団面接だったため、早くから多くの面接練習をしました。結局、自信に変えることはできずに本番に挑みました。集団面接はなんとか乗り切ったものの、二次試験の個人面接では思ったような面接ができず、不合格という結果になってしまいました。

講師生活をしながら、対策をしようとは思うものの、なかなか時間もとれず一次試験を迎えることになり、大学時代と同様、なんとか乗り切りました。面接の対策をどうすればよいのか悩んでいたところ、校長先生から面接練習をしていただけるとの連絡がありました。一度だけでしたが、練習を行い、アドバイスをいただきました。この練習を行ったことと、アドバイスが大きな自信に変わり、堂々と二次試験に挑んだ結果、合格をいただくことができました。何がきっかけで課題が乗り越えられるかは分かりません。多くのことに積極的にチャレンジしていくことが大切だと感じました。

2 講師中の勉強対策はどのように工夫したか

上記に書いた通り、勉強対策、面接対策など試験に向けての対策はほとんどしていません。大学時代にしていた対策が良かったと感じています。大学が開講してくれる講座や先生が個人的に開講してくれる講座、面接練習など多くの対策を行いました。そこで多くの知識やポイントを得られたことが、今回の試験にもつながったと思います。

3 後輩へのメッセージ

初めての教員採用試験ということで、不安や心配が多いと思います。不安や心配を自信に変えることは決して簡単なことではありませんが、やってきたことは裏切らないと思います。人生最後の試験だと思って本気で挑んでみてください。すぐにはいい結果が得られないとしても、きっと、何か得られるものがあると思います。

そして、周りにいる友人は、それぞれ受ける試験は違っても、同じ目標をもった仲間です。協力して、励まし合って、試験に挑んでください。多くの人がいい結果を残せるよう応援しています。頑張ってください。



合格体験記 石川県(中学校・高等学校)

経済学部 経済学科 2016年度卒業 阿部 和利

＜はじめに＞

私は、中学生の頃から地元である石川県で教員になりたいという気持ちを持ち続けてきました。それまでの過程で様々な困難や苦悩がありましたが、4回目の挑戦で石川県教員採用試験に合格することが出来ました。合格できたことに対する嬉しさや喜びがある一方、「もっと成長できるためにできることはないか」など模範となるような行動をしっかりと心がけなければならないと感じています。ここでは、私が合格するまでの体験やアドバイス等を通して、今後のみなさんの役に立つことが出来ればと思います。参考になるかどうかは分かりませんが、読んで頂いたみなさんの夢が叶えられるよう、少しでもお力になれば嬉しい限りです。

＜筆記対策（一般教養・専門教養を含める）＞

- ① 自分が採用試験を受ける自治体の有名なもの（文化財・著作人・動物など）を必ず押さえておく。
- ② 過去問題集は必ず購入し、自治体の傾向や出題パターンをしっかりと把握する。
- ③ 最新のニュースや新聞等にきちんと目を配る。特に教員・教育系の情報は必ずチェックし、整理しておく。
- ④ 学習指導要領のポイントを必ず押さえておく。
- ⑤ 専門教養は、苦手な範囲を自分なりにまとめ、毎日読み書きなどを繰り返してまとめる。その上で得意な範囲も含め、様々な問題を解いて実践力を高めていく。

私は3年間、通年で講師をしていて日々の授業や部活動など、普通の先生と何も変わらない仕事をこなしている中で合格にたどり着きました。大学生の時は「講師をしていると勉強時間が取れないのでは」と不安に思う時もありましたが、勉強時間を確保して頂けるだけではなく、現場で働くからこそ見えてくるものがたくさんありました。もちろん「帰ったら毎日〇時間勉強!」という目標も必要ですが、座学だけでなく、講師として働いて得た経験が合格へと繋がったのではないかと思います。「継続は力なり」です。

＜2次試験対策＞

- ① 自治体によって試験内容が異なります。面接と言っても「個人」・「集団」があり、集団討論が行われたり、模擬授業を行う自治体もあります。各自で各自治体の試験内容を確認しましょう。
- ② 私は模擬授業（10分程度）と個人面接でしたが、何より現場で働いたことが採用試験に生きたと確信しています。面接に関しては大学生の時に就職活動を並行して行っていたので、苦手意識はありませんでした。
- ③ 面接で聞かれることは様々ですが、大学生であれば自分が何を経験してきたか、「具体的」に言えるようにしておくのが望ましいです。それがどう教育と結びつくのか説明できると、大きな武器になるでしょう。
- ④ 模擬授業では、子どもたちの姿を思い浮かべながらその場面を想像して笑顔で取り組みました。子どもたちを楽しく学習させたいのであれば、自分自身が楽しくさせる雰囲気を作ることが大切です。また、受験する自治体の教育委員会が求めている教員像にいかに近づくことが出来るかが、大きな鍵となります。

☆大学生の時の経験だけでなく、小・中・高校と何をしてきたのか、そこで何を学んで今後、どう生かしていきたいのか、まとめておくの良いでしょう。また、就職活動の経験もできればしておくが良いです。
☆講師で教育現場を経験しながらの勉強は「可能」です。日々の授業や子どもたちとのふれあいなど、実践に勝るものはありません。

＜最後に＞

「合格」へとつながったのは私1人の力ではなく、たくさんの人の支えがあったからこそだと思っています。支えてくださった方々に恩返しをするためにも「必ず合格してやる!」と意気込み、「合格」を掴むための努力を欠かさずに今日までやってきました。だからこそ、大学生のみなさんに伝えたいのは、積極的な行動でたくさんの経験をしてください、ということです。その経験は良い・悪いに関係なく、皆さんの財産となりこれから生きてきます。早めの行動で「夢」をつかみ取ってください。そして自分に負けず、頑張ってください。応援しています!





<https://hgsite.net/SHOP/14002-0009.html>

卒業生からのたより

子ども発達学部 心理臨床学科 障害児心理専修 2019年度卒業

北海道 特別支援学校 天野 愛佳

はじめに ～自分と働いている学校について～

生まれも育ちも愛知県の私ですが、大好きな北海道で教員となりました。赴任校は、あの伊藤修毅先生も働いていた中標津^{なかしべつ}支援学校という学校です。もともと、中標津高等養護学校という高等部単独校でしたが、合格した年度に小中学部が併設され、私は小学部1年生クラスの教員として配属されました。

仕事について

後期になると、授業や分掌、会議などの仕事を調子よくこなせるようになってきました。それまでは、会議の内容も、周りは何をやっているのかも、よくわかりませんでした。また、授業も最初は考えた通りにいかず、自分の実力の無さを痛感しました。わからない、できないことばかりだった私は、とにかく周りの教員から学び、自分だったらどうやるか考え、頼れる教員にたくさん相談をしました。このように前期もがいた結果、仕事がこなせるようになってきたのはもちろん、周りの先生と日々楽しく勤務しています。仕事の中でも特に褒められて、自分でも頑張った！と感じたことは、後期の研究授業が前期よりも上達したこと、分掌業務（高等部生徒の進路指導や卒業支援が業務＝小学部教諭の私やることなし）の中で小学部教諭としてやることを見出して実行できたこと（小中学部用のお便りを発行）です。

大変だったこと

仕事よりも大変だったことは、赴任でした。北海道の赴任校発表は3月中旬なのですが、事務からは「自己責任でアパートなど用意して下さい」の一言でした。自己責任でと言われても、愛知から中標津に赴く時間もお金もなく、困った私は、電話をしまくって、なんとかアパートを確保したり引っ越しの手続きをしたりすることができました。（けれども、最初の2週間はホテル暮らし←この費用も前例がないと言われ、お金がでないところでした。笑）当時は、住む場所が決まらない中、勤務に関する手続きをするのが本当に憂鬱でした。これから地元を離れて教員になる学生さんは、今のうちから持っていく荷物を決めたり、アパートを探したりすることをおすすめします...！

最後に ～これからの仕事に不安を感じる学生さんへ～

よく、教員はブラックだと言われます。やっぱり働きたくない！と感じた学生さんに伝えたいことがあります。それは、どんな仕事でも“やりがい”がなければ続けられないということです。これは、趣味の乗馬で通っている牧場の方から言われた言葉です。確かに、100%ホワイトな仕事など無いに等しく、どこかで我慢などはしなければなりません。その中で、いかに“やりがい”を見つけ出し、それを楽しめるかが、仕事を続けられるポイントの1つであると考えます。例えば、私の“やりがい”は、子どもが「できた！」と笑顔を見せてくれる瞬間です。教員によって“やりがい”は様々あると思いますが、中には、そのために頑張りがすぎてブラックな働き方になってしまう...教員という仕事はなんとも難しいですね...

楽しく元気に働くもう1つのポイントとして、仕事でもプライベートでもしっかり相談できる人をつくることです。今いる友達や家族はもちろん、これから出会う教員の中に信頼できる人を見つけて下さい。疲れや悩み、愚痴などは、ため込まないで、話したり遊んだりして、どんどん発散していくといいです。



卒業生からのたより

現状報告とアドバイス

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修 2016年度卒業

愛知県 小学校 山本 慧太

みなさんは今、大学生活を楽しんでいるだろうか。何か趣味はあるだろうか。特技はあるだろうか。楽しい大学生活を送っているだろうか・・・

私は今、小学校の教師をしている。子ども達のエネルギーはとても大きい。明るく元気な小学生とかかわることで、私もパワーをもらえる。大変な事は多いが、やりがいのある仕事である。今、この仕事に就くことができてよかったなと感じている。

教師は教職のプロであり、児童理解や学習指導、発問の方法や学級経営のテクニックなど、大学生の内に学んでおいた方がいい知識や技はたくさんある。しかし、その知識や技は、実践してみないことには重要であるか、必要であるか、自分に合った方法なのかどうかは分からない。教師になってみないと分からないこともたくさんあるのである。では、教師を目指す大学生でもできることは何なのだろうか。

私なりの答えは、子ども達に「生きることは素晴らしい」と伝えるための準備をすることだと考える。子どもは大人のことをよく見ている。生きることは素晴らしいと伝えるためには、まずは自分自身が「生きることは素晴らしい」と思って生活し、子ども達の見本となる必要がある。大学生のみなさんに考えてほしいことは、今自分は大学生活を楽しんでいるだろうかということである。まずは自分自身、人生を楽しんでいるだろうか。「土曜日の講義はめんどくさいな」「またバイトだ」「サークルのイベントを考えるのは嫌だな」など、マイナスな感情をもつことはあるだろう。しかし、「最近勉強が分かるようになってきた」「貯めたお金で旅行してみようかな」「次のサークルでやるイベント楽しみだな」などのプラスの感情を大切にしてほしい。そのわくわくする気持ちや、ドキドキする気持ちが、子ども達を良い方向へ導くきっかけとなる。なので、大学生の間は自分自身が人生を楽しむきっかけをたくさん見つけてほしいと思う。そうすることで、先生になったとき、「生きることは素晴らしい」の引き出しをたくさんもった状態で教壇に立つことができる。

私は今年、初めてハーフマラソンにチャレンジした。初めてアメリカに行った。大好きな趣味を全力で楽しんだ。「生きることは素晴らしい」ということをたくさんすることができた。いろいろな事を楽しむ姿、何かにチャレンジする姿、生き生きしている姿を子どもに見せることで、「楽しむっていいな」「生きるっていいな」と思ってくれたら、とても嬉しい。

もう一度みなさんに聞きたい。今、大学生活を楽しんでいるだろうか。何か趣味はあるだろうか。特技はあるだろうか。楽しい大学生活を送っているだろうか。

今を全力で楽しんでほしい。挑戦してほしい。「生きることは素晴らしい」の引き出しをたくさんつくってほしい。先生の楽しい姿を見て育つ子どもは、あんな風になりたいと思って成長するだろう。明るく元気な子どもを育てるために、まずは自分から人生を楽しんでほしい。



教育実習体験報告

「教育実習で学んだ現場の教育」

子ども発達学部 心理臨床学科 障害児心理専修4年 佐々本 開斗

私は知的障害の特別支援学校へ教育実習にいきました。これまで、特別支援学校の教師になるために必要な知識や技術を積極的に学んできたので、それがどれだけ通用するのかとても楽しみでした。

実習先では、元気な子どもたちが私を笑顔にしてくれ、毎日がとても楽しかったです。講義で学んだことを実際に肌で感じることもできました。しかし、楽しいことばかりではありません。配属学級では、てんかんのある子どもがいました。てんかん発作はいつ起こるかわからないので、常に先生がそばにいないければなりません。さらに、校外学習では、たくさんの危険が隣り合わせなので、救急ポーチを持っていくことや、両手を常に開けておくようにしておくことなど、注意しなければならないことがありました。教師は子どもたちと遊びを楽しむ一方で、いつもと違う様子はないか、危険はないか、など、常に周りを見ておく力が必要だと感じました。

実習中、学校教育の現実を見ることもありました。社会の都合に合わせた教育です。「子どもたちがより良く生きていけるように」ではなく、「できるだけ問題を起こさず生きていけるように」ということに重きを置いているようでした。

この教育実習ではこの現実に対して私が教員としてどう生きていけばいいのか、考えるきっかけになりました。これからも常に自問自答しながら子どもたちと関わっていきたいと思います。



「教育実習で学んだこと」

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 井土 純

私は、半田市の小学校で実習を行いました。今回の教育実習では、授業の取り組みだけでなく、子どもと積極的にかかわり、知るということを目指して臨みました。子どもを知るというところから全てが始まるので、そのためにも自分から積極的にかかわり、コミュニケーションを取るようにしました。しかし、子どもを知るためには、一歩下がって客観的に観察しなければ全体が見えないということに新しく気づきました。

学習発表会のグループ練習中、ある一人の女の子の児童が泣いている現場を見て、「どうしたの？」と言おうと近づいたとき、指導教諭から「あの場面は入ってしちゃいけない。もう少し待って観てごらん。」と言われ止められました。その後、その女の子はグループの児童と話し合い、少しずつ笑顔になっていました。あの時もし自分が、無理やり子どもの中に入ってしまったら余計にこじれていたかもしれないと思います。このことから、子どもを知るためには、一人の子どもに対して関わったり、アプローチをしたりすることは大切だが、それ以上に、当事者の周りの子どもや前後関係をじっくり日頃から観察していかなければならないということを学びました。

教育実習は、目の前の「子ども」から沢山気づき、学ぶことがあった4週間だったと思います。小学校という現場での学びや経験をこれからの大学生活で深め、次の中学校実習に繋げていきたいと思っています。





教職インターンシップ

教職インターンシップ I で学んだこと

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 梅村和歌

教職インターンシップ I の活動を通して感じたのは、大学の授業で学んだことだけでは学校教育の現場でなにもできないということです。大学に入学して1年間、子ども理解や学校教育の実態などについて学びを深めてきました。それでも、教職インターンシップ I の活動で実際に子どもと関わるとき、どうしても戸惑ってしまったり、疑問が生まれたりすることばかりでした。そこで初めて、大学で学んでいることは子ども理解の基本でしかなく、現場に必要なのは大学で学んだ、教育や子どもに関しての基本をどのように工夫、試行錯誤していけばよいのかであることに気づきました。

教職インターンシップ I の活動を通して、上記に気づけたことは、これからの模擬授業や教育実習の活動に向けて準備するうえで、非常に役に立つと感じています。

一方で、教職インターンシップ I での反省点もあります。それは、子どもに算数の宿題を一緒に考えてほしいと頼まれたとき、その問題がまったく分からず、結局、教科書の内容を振り返ってもらうことしか出来なかったことです。子ども理解や学校教育の実態を知ることと同じくらい大切な教科内容の勉強を疎かにしていたことを実感しました。

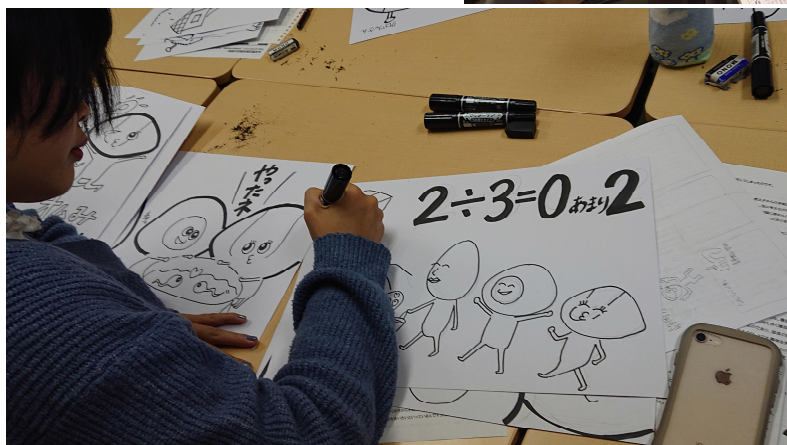
教職インターンシップ I の活動では大学の授業では学べない、教育現場のリアルを知ること、子どもと同じ目線で生活することで見えてくる教育現場のあり方を学びました。この経験をこれからのみずからの学びに活かせるように励んでいきたいと考えています。

教育自主研究サークルについて

教材づくりゼミ

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 向島 拓寿

板垣先生が今まで実際に学校で使ってきた教材をお手本に毎週1つ、教材を作っています。特に面白かったのはわり算計算器！わり算には包含除と等分除という2種類があるけど、それをうまく教えるのは大変。そんなときにわり算計算器を使って簡単なゲームをやると、子どもは等分除、包含除なんて難しい言葉は知らなくても理解してしまうそうです。そんな話を板垣先生から聞きながら、自分の手で教材を作ったら実際に授業をしてみたいくなります！それにただ作っているだけではなく、教材を作りながら板垣先生の経験談を聞いたり、先輩たちと楽しくお喋りしたりとみんなで教材を作るって楽しいです！なかなか一人ではやらない教材づくり、一緒にやりませんか？月曜日4・5限にゼミ棟B-206教室でやっています！是非興味がある方は参加してください。





スポーツ科学部教員養成の取り組み

－これまでの取り組みと完成年次に向けて－

教職課程センター委員 岡田雄樹（スポーツ科学部）

本学部は「教員養成系大学」でも「教育学部」でも「スポーツ教育学科」があるわけでもないため、学生の教師への就職希望は揺れ動く状態にあります。「一つの進路としての教師」から「夢としての教師」まで動機は様々です。兎にも角にも「なりたい」のであればそれを支える取り組みが必要です。ただし、本学部では、その「なりたい」を大切にしながらも「なれたらOK」というスタンスをとっているわけではありません。「教師の責任」や「授業力」の重要性も同時に伝えています。それは4年間の講義内で系統的に伝えるよう心がけています。保健体育科で言えば、「保健体育科教育法」Ⅰ（基礎理論）、Ⅱ（各競技・種目指導）、Ⅲ（授業づくり）から教育実習事前・事後の講義や模擬授業に至るまで各先生と連携を図りながら取り組んでいます。

自虐的に言えばこれまでの体育は学問とは無縁の各教科の合間にある「息抜き」や「心身のリラックス」の時間と捉えられてきた実態があります。それらは学生のレポート等からも読み解くことができます。そうした反省に立ちながらも古き悪しき保健体育教師像を脱し、新しい保健体育教師像を目指しています。それを目指すために、「ふくしの大学」で学ぶこと、そして、「特別支援学校教諭一種免許状」が取得できることはとても大きな力になります。これらに関わる様々な講義を受講することで、特別支援学校での教育や授業はもちろんのこと保健体育の授業にも生きてきます。「障害の有無」、「異性」、「年齢差」、「うまい、へた」などに捉われず、多様な人間にスポーツや運動を提供できるようになるはずです。事実それらを学んだり、それらの専門教員と関わったりすることで、「特別支援教育研究会」という自主サークルも立ち上がりました。

加えて、学部独自の教員採用試験対策の取り組みは「教職カフェ（1年次）」、「教員採用試験対策講座（2年次）」、「保健体育科教育特講（3年次）」といった任意ながらも、系統的な講座や講義を開催しています。半強制的にしたい気持ちもありますが任意にしているところがポイントで、学生の主体性に期待を込めながら、たまには刺激を与えながら辛抱強く参加を待ち続けています。

最後に、本学部一番の成果は先輩後輩の関係ができてきたことです。一期生は前例の恩恵を受けられないため様々試行錯誤をしている段階が続きますが、後輩はその試行錯誤を見たり、聞いたりすることができます。その先輩たちの苦勞を大切にしながら財産を引き継いで欲しいものです。そして、来年度は完成年次を迎えます。一期生が教育実習でこれまでの学びを体現できることに期待します。またそれが、教師としての力量をつけることへの意欲に繋がるか楽しみにしつつ、4年間の取り組みを総括する年にしたいです。



今後の予定

【新2年生】

教職課程オリエンテーション

美浜キャンパス 3月27日（金）4限～5限

東海キャンパス 3月27日（金）4限～5限

教職課程登録

3月27日（金）～30日（月）17:00まで

※教職課程オリエンテーションに出席後、課程履修費の納入及び課程登録を行ってください。

【新3年生】

教育実習手続き（中学校・高等学校・特別支援学校 教育実習内諾依頼）及び介護等体験 説明

美浜キャンパス 4月9日（木）3限

東海キャンパス 4月9日（木）4限

※4年次の教育実習校の内諾依頼に向けた手続きについて説明します。

【新4年生】

教育実習手続き（中学校・高等学校・特別支援学校 教育実習直前）及び介護等体験 説明

美浜キャンパス 4月9日（木）4限

東海キャンパス 4月9日（木）5限

※教育実習Ⅰ事前事後指導のクラス・日程については各学部の時間割冊子を参照してください。

